国立民族学博物館
友の会ニュース
MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

No.284
2024.3▸4

発行 2024年3月1日
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

国立民族学博物館友の会

2024年度上半期の予定

今年、みんぱくは創設50周年を迎えます。
館内で実施されるさまざまな周年記念事業とともに、友の会の催しや刊行物をお楽しみください！

友の会講演会

■大阪：毎月第1土曜日・第5セミナー室で開催

みんぱく館内で開催する友の会講演会は、会場とオンライン配信併用で実施しています（オンライン配信は友の会会員限定。諸事情により会場のみで実施する場合があります）。

4/6(土) ・・・詳細はP5
柳沢 英輔(京都大学特任助教)

5/4(土・祝) ・・・詳細はP5
みんぱく創設50周年記念特別展「日本の仮面──芸能と祭りの世界」関連
吉田 憲司(民博館長) ※終了後、本館展示を見学

6/1(土)
みんぱく創設50周年記念企画展「『水俣病を伝える』」関連
平井 京之介(民博教授) ※企画展を見学

7/6(土)
みんぱく名誉教授シリーズ
竹沢 尚一郎(民博名誉教授)

8/3(土)
永井 正勝(民博特任教授) ※終了後、本館展示を見学

9/7(土)
みんぱく創設50周年記念企画展「客家と日本(仮)」関連
河合 洋尚(東京都立大学准教授) ※終了後、企画展を見学

東京でも年に数回、不定期で開催しています。
予定が決まり次第ご案内いたします。

家庭学術雑誌『季刊民族学』

友の会の機関誌です。世界各地の人びとの営みを読み応えある文章とふんだんな写真で紹介する家庭学術誌です。

188号 特集「シン・シャーマニズム論(仮)」（4/30発行）
189号 特集「先住民のデジタル世界(仮)」（7/31発行）

10月発行号で、みんぱく創設50周年記念特集を予定しています。

体験セミナー（国内）／民族学研修の旅（海外）

研究者が同行する国内外の研修企画です。
予定が決まり次第ご案内いたします。

海外民族学研修の旅を再開します

2020年以降、休止していた民族学研修の旅を再開します。
今年度の訪問先はメキシコ。「民衆芸術」を切り口に多様な造形表現と、それが生み出された歴史・文化・社会背景に注目します。
訪問時期は2025年2月頃。夏から秋にかけて、詳細をご案内する計画です。ぜひご予定ください！

プログラムは変更する可能性があります。
その都度、「友の会ニュース」『月刊みんぱく』などでご案内いたします。

入学・就職のお祝いに！

みんぱく友の会へのご入会を
プレゼントにご利用ください！

送り主様からのメッセージを添えて会員証をお届けします。
郵便局で、振替用紙の備考欄に、ご送付先のご住所及びお名前（フリガナ）をご記入のうえ、年会費をご送金ください。正会員の方は『季刊民族学』巻末に綴じ込みの振替用紙もご利用いただけます。

振替口座番号：00970-9-317960
加入者名：公益財団法人千里文化財団

ご入会キャンペーン2024

新規ご登録いただいた方に
差しあげます！

期間中、正会員に新規ご登録いただいた先着20名の方に、みんぱくの資料を描いた絵札がモチーフの「民族学いろはかるたキャンバスバック」をプレゼントします！

キャンペーン期間
2024年3月28日(木)～4月30日(火)

単品でもご購入いただけます。
会員価格 2,250円（税込）
定価 2,500円（税込）

会員種別ごとのご利用内容、登録手続きに関する詳細は友の会ホームページをご確認ください。
入会のご案内 https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/

まもなく開幕！

みんぱく創設50周年記念特別展

日本の仮面──芸能と祭りの世界

会期 2024年3月28日（木）～6月11日（火）　**会場** 国立民族学博物館 特別展示館

「日本の仮面」と聞くと、舞楽や能、狂言など、古典芸能に登場する面を思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれません。今回の特別展では、こうした古典芸能の面ではなく、日本各地で継承されてきた祭りや芸能に登場する仮面を紹介し、日本の仮面、ひいては日本の文化の特性を捉え直すひとつのきっかけを提示します。

展示は四章にわけて構成されています。そのうち、展示のメインとなるのが第二章「祭りや芸能の中の仮面」、第三章「仮面の諸相」です。第二章では、仮面や仮面をつけた役柄が重要かつ印象的な芸能や祭りを九つ取り上げ、その様子を記録した映像とともに、使用される仮面一式を取り揃えて紹介します。第三章では、仮面のもつ役割、もしくは仮面と人とのかかわり方に着目します。

例えば、神霊や歴史上の人物、聖獣など、仮面をかぶった人間は「この世の者ではない存在」として登場することが知られています。仮面のつけ方に注目すれば、舞台上で仮面をつけたり、演じ手の顔が見えるように仮面をつけたり、時には仮面の上から仮面を装着したりと、仮面の役割・仮面と人とのかかわりが一様ではないことを展示をとおして紹介します。

仮面がもつ多様な側面は、仮面が登場する芸能や祭りの歴史的な展開、それらの全国各地への伝播・定着と、その後の各地域社会における伝承を通じて形成されてきたとみることができます。多様性に富む日本の文化のあり様を、仮面をとおして見つめ直してみませんか。みなさんのご来館をおまちしております。

友の会会員のみなさんにご案内

特別展の観覧料が割引料金に！

会員証をご提示いただくと、割引料金（大人 110 円）でご観覧いただけます。キャンパスメンバーズ登録校の方は、学生証もしくは職員証のご提示で無料になります。
（通常料金は、大人 880 円、大学生 450 円、高校生以下は無料です）

友の会講演会に館長が登場！

5月4日（土・祝）に開催する友の会講演会は、特別展の関連イベントです。
アフリカをはじめ、世界各地の仮面の調査を続けてこられた吉田憲司館長に「仮面とわたし」と題してお話しいただきます。
詳細は本紙5ページをご覧ください。

関連商品

特別展オリジナルグッズ

鹿児島県・硫黄島の伝統行事「硫黄島八朔太鼓踊り」に登場する仮面神メンドンがオリジナルグッズになりました。

襟元や胸元、帽子やかばんなどおしゃれのアクセントに。

ピンズ
会員価格 765円（税込）
定価 850円（税込）

オーガニックコットン使用。肌触りのよいタオル生地にメンドンのワンポイント。

ハンカチタオル
会員価格 1,009円（税込）
定価 1,122円（税込）

みんぱく創設50周年記念特別展
日本の仮面──芸能と祭りの世界

特別展図録　**3月28日発行予定**

みんぱく創設50周年記念特別展
日本の仮面──芸能と祭りの世界

国内各地には、仮面がさまざまなかたちで用いられ、重要な役割を果たしている芸能や祭りが伝えられています。多様性に富む日本の仮面のあり様を特別展の構成に即して紹介します。

写真はイメージです。
特別展の関連商品は、開幕以降に店頭に並びます。
図録の価格は、ホームページ等でご案内いたします。

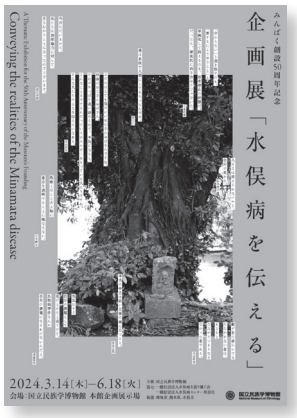
お問い合わせ
国立民族学博物館ミュージアム・ショップ（水曜日定休）
e-mail shop@senri-f.or.jp
オンラインショップ「World Wide Bazaar」
https://www.senri-f.or.jp/shop/

国立民族学博物館創設50周年記念サイト オープンしました！

国立民族学博物館（みんぱく）は、文化人類学・民族学とその関連分野の大学共同利用機関として1974年に創設され、1977年に大阪・千里の70年万博跡地に開館しました。2024年、みんぱくは創設50周年を迎えます。
記念サイトでは、周年記念事業に関する情報のほか、創設時のみんぱくを支えた名誉教授のインタビュー記念動画、博物館活動の記録などが順次公開される予定です。応援メッセージや記念募金の受付もおこなっています。
利用者のみなさんと、ともに歩んだみんぱくの50年をお楽しみください。

創設50周年記念サイト（みんぱくHP内）
https://www.r.minpaku.ac.jp/anniversary/index.html

企画展もはじまります！



みんぱく創設50周年記念企画展

「水俣病を伝える」

会期　2024年3月14日（木）～ 6月18日（火）
会場　国立民族学博物館 本館企画展示場

水俣病の発見から70年近くがたちました。現在、熊本県水俣・芦北地域では展示やガイドツアー、写真、語り部講和などを通じ、水俣病の歴史や被災者の苦しみ、公害の経験をいかしたまちづくりなどを伝える活動がさかんです。どのような人がこの活動をしていて、そこにどういう思いがあるのでしょうか。言葉やモノ、映像、場所はどのように活用されているのでしょうか。この企画展では、水俣病を伝える活動の魅力と、そこから学べるものの可能性をさぐります。

予告！

研究者のフィールドワークを追体験する「フィールドワーク展示」をコンセプトとしている今回の企画展。6月1日（土）の友の会講演会では、その試みに迫ります！

写真はフィールドワークの様子。

第85回体験セミナー 実施報告

日本文化の多様性をさぐる
―佐々木高明が歩いた九州の山村を訪ねる

同行講師　池谷 和信（民博教授）
実施日　2023年11月23日（木・祝）～11月25日（土）

焼畑研究の第一人者として知られるみんぱくの第二代館長・佐々木高明。彼の焼畑研究の原点となった熊本県五木村で、昨秋、二度目となるみんぱくとの共催展示が開催されました。その会期にあわせ、かつて焼畑を中心的な生業としてきた九州山間部の三つの地域を訪ねました。

自然と調和した山間部の生業の知識に触れることが今回の旅の目的です。そのため、焼畑の記憶をお持ちの方、狩猟や養蜂を営む方、山の暮らしが表された神楽舞に携わる方など、文化施設ばかりでなく、地元の方々との交流の機会を多く設け、現場へと足を運びました。一見すると不便な印象を抱かれがちな山間地域ですが、そこで出会った生業や食の知識に、都市部とは違った豊かさを実感することができました。若い移住者とお話しする機会が得られたことも、印象を改めるきっかけになったように思います。

まさに「日本文化の多様性」を感じることができた三日間でした。（文・事務局）

第85回体験セミナーの訪問先・プログラム

- ヒストリアテラス五木谷
- 佐々木高明の調査集落
- 五家荘平家の里
- 樅木の吊り橋
- 椎葉民俗芸能博物館
- 狩猟や養蜂を営む方々との交流
- 椎葉神楽の実演・舞手の方々との交流

など

養蜂の名人から話をうかがう。木をくり抜いた自作の巣箱（ハチウド）は訪問先一帯でよく見かけられた。軒下に下がっているのはトウキビ。

五木村、椎葉村の生活は自給自足に近いという印象でしたが、それだけではなく種を継承していくという考えで作物を育てられていることに驚きました。山の食べ物は山菜と根菜ぐらいと考えていましたが、予想外に多様な食材と調理方法で食を楽しまれていることが伝わってきました。物流が止まっても日々の食材に困ることもなく、持続可能な生活という意味では生活力の強さを感じ、「幸せ」とは何かをあらためて考えさせられました。（松山文佳さん）

土地の人たちが山の文化を大切にし、誇りを持ち、次の代に伝えていこうとの気概を感じ取ることができました。またそれを発信していく施設では若い世代の人たちが活躍されていることと併せて、明るい材料を見出した思いがしました。（伊藤久雄さん）

ふきだしは参加者の感想です。

ご案内

館内催し 会員先行予約について

みんぱくゼミナール、みんぱく映画会、研究公演など、館内で開催する一部の催しには、友の会会員のための先行予約枠があります。
先行予約の受付期間・申込方法については『月刊みんぱく』P12-13「みんぱく回覧板」の情報をご参照のうえ、
期間内に友の会事務局までお申し込みください。

みんぱく友の会活用術

友の会の映像アーカイブスをご利用ください！

https://www.youtube.com/@minpakutomo/videos

みんぱく友の会の公式YouTubeチャンネルで、映像アーカイブスを公開しています。
みんぱくの研究者が登場する「オンラインレクチャー」のほか、許諾が得られた一部の友の会講演会についてもアーカイブ公開をしています。

国立民族学博物館友の会 オンラインレクチャー

▶第1回目
梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」に寄せて
話者：中牧 弘允（千里文化財団理事長、民博名誉教授）
第1回：梅棹忠夫が残した「こざね」とはどういうものか
第2回：「こざね」から復元する梅棹忠夫の『日本人の宗教』

▶第2回目
感染症と文明――現下のコロナ禍に思う
話者：吉田 憲司（民博館長）

▶第3回目
なぜ古代文明の建物は大きいのか
――南米アンデス文明からの視点
話者：関 雄二（民博教授）

▶第4回目
『季刊民族学』連動シリーズ
先生、教えてください！vol.1前編
先生、教えてください！vol.1後編
話者：川瀬 慈（民博准教授）

▶第5回目
『季刊民族学』連動シリーズ
先生、教えてください！vol.2
話者：池谷 和信（民博教授）

▶第6回目
国立民族学博物館特別展「*Homō loquēns*『しゃべるヒト』
――ことばの不思議を科学する」みどころインタビュー!!
話者：菊澤 律子（民博教授）

友の会講演会アーカイブス

▶第523回
モンゴルとSDGs 前編
モンゴルとSDGs 後編
話者：
山極 壽一（総合地球環境学研究所所長）
小長谷 有紀（民博客員教員、日本学術振興会監事）

▶第529回
ポップカルチャーからみるインドネシア社会
講師：金 悠進（民博機関研究員）

▶第530回
カヌーとくらし――海に生きるオセアニアの人びと
講師：須藤 健一（堺市博物館館長、民博名誉教授）

▶第533回
モンゴル遊牧民の“ルームツアー”
――モノの配置にみる生存戦略
講師：堀田 あゆみ（大阪国際大学非常勤講師）

▶第542回
有明海のウナギから考える、生態系の未来
講師：久保 正敏（『季刊民族学』編集長、民博名誉教授）

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2023

「日本人」の内と外――異文化接触を語り合う
2025年まで毎年開催！
https://www.senri-f.or.jp/expo_symposium2023/

※話者と講師の所属・肩書きは、収録当時の情報です。

提携施設に関するお知らせ

万博記念公園「EXPO’70 パビリオン」ご優待が再開されます

みんぱく友の会の会員証をご提示いただくと、友の会の提携施設で優待サービスを受けることができます。昨年より休止していたEXPO’70 パビリオンでのご優待が再開されます。

再 開 日：2024年4月1日（月）
優待内容：団体割引料金での入館（200名以上の一般団体と同額）
会員証のご提示で友の会会員ご本人様のみご利用いただけます。

友の会の提携施設について
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/service/

展示に関するお知らせ

リニューアルしたアフリカ展示をお楽しみください

本館展示の資料を順次入れ替えしています。
リニューアルしたアフリカ展示では、「歴史を掘り起こす」「祈り」などのセクションの一部資料を入れ替えました。

下記期間において、南アジア展示を閉鎖しています。
南アジア展示 閉鎖期間：2024年3月7日(木)まで

3・4月のイベントスケジュール

■みんぱく創設50周年記念特別展
3/28日(木)〜6/11(火)
「日本の仮面──芸能と祭りの世界」
■みんぱく創設50周年記念企画展
3/14(木)〜6/18(火)
「『水俣病を伝える』」

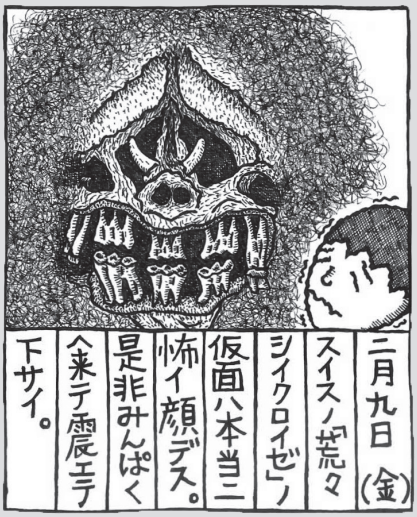
●友の会講演会 [オンライン聴講は要事前申込]
3/2(土) 松本雄一(＊)　4/6(土) 柳沢英輔(＊)
●みんぱくゼミナール [要事前申込]
3/16(土) 永野三智・平井京之介
4/20(土) 笹原亮二
●みんぱくウィークエンド・サロン
3/10(日) 吉岡乾　3/24(日) 平井京之介
3/31(日) 諸昭喜　4/21(日) 笹原亮二
4/28(日) 小泉初恵・平井京之介
●その他の催し
3/30(土) 企画展関連ワークショップ
「水俣の海を感じる──語り部講和とシーグラス体験」**[要事前申込]**
4/14(日) みんぱく創設50周年記念研究公演
「千本ゑんま堂大念佛狂言民博公演」**[要事前申込]**

【館外での催し】
●3/1(金)
みんぱく創設50周年記念事業 みんぱく公開講演会
「日本の仮面をつくる──現代に生きる神楽面」(＊)
会場:オーバルホール(大阪・梅田)＜受付終了＞
●友の会 東京講演会 [要事前申込]
3/23(土) 会場:モンベル御徒町店
島村一平

◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用(＊印)で実施する催しもございます。詳細はみんぱく、ならびに友の会のホームページをご確認ください。
◆イベントの参加には必ず会員証をお持ちください。

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

■大阪
・会場(定員90名)、オンライン配信ともに事前申込先着順です。
・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。
■東京
・事前申込先着順です。オンライン配信はございません。
※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。
(参加費500円)

大 阪

第547回

ベトナム中部高原のゴング文化

講　師：柳沢 英輔（京都大学特任助教）
日　時：4月6日(土)13:30〜15:00(開場13:00)
参加方法：①第5セミナー室での参加　②オンライン(ライブ配信)での参加

ゴングは東南アジア各地で宗教的な儀礼の際に演奏される神聖な楽器です。ベトナム中部高原では、先住少数民族がゴングセットを受け継ぎ、村落の儀礼・祭礼において演奏に使用しています。本講演ではゴングがどのように作られ、調律され、演奏されているのかについて、現地で撮影した映像や録音をご紹介しながら解説します。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/547tomo/

第548回

【みんぱく創設50周年記念特別展「日本の仮面──芸能と祭りの世界」関連】

仮面とわたし

講　師：吉田 憲司（民博館長）
日　時：5月4日(土・祝)13:30〜15:00(開場13:00)
参加方法：①第5セミナー室での参加　②オンライン(ライブ配信)での参加

大学へ入学した年から始めた仮面をめぐるフィールドワーク。今年 2024 年でちょうど 50 年越しの仮面との付き合いになります。日本国内から始まった仮面の探究は、アフリカへ、そして、アジア、アメリカ、ヨーロッパへと広がっていきました。その原点はどこにあったのか。そして、その到達点は？ わたしの仮面研究の軌跡をたどります。

※講演会終了後、講師が担当した資料を中心に、本館展示の見学会をおこないます。
(要会員証もしくは展示観覧券)

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/548tomo/

東 京

第136回

生まれかわりを信じるということ
──モンゴルの輪廻転生を巡る語りから

講　師：島村 一平(民博教授)
日　時：3月23日(土)13:30〜15:00(開場13:00)
会　場：モンベル御徒町店4階サロン(定員50名)
協　賛：株式会社モンベル
※オンライン配信はございません。
※9月の東京講演会と会場店舗が異なります。気をつけてご来場ください。

現在、多くのモンゴル人はチベット仏教的な輪廻転生を信じています。人が亡くなって 49 日が過ぎると、黒子や痣を目印に転生者を探すのです。本講演では、モンゴルの輪廻転生に関する普通の人びとの語りを紹介していきます。彼らの語りを通じて、転生が本当なのか、気持ちに揺れをもちながらも、人が死の悲しみを新たな生への喜びへと転換していく姿を描き出していきます。

受付フォーム　https://www.senri-f.or.jp/136tokyo/

友の会講演会 実施報告

■第543回■2023年12月2日(土)

【特別展「交感する神と人――ヒンドゥー神像の世界」関連】

ヒンドゥー神像の美と信仰

――飾りつけをめぐって

福内 千絵（大阪芸術大学非常勤講師）

本講演では、ヒンドゥー教の信仰において重要な一角を占める「神像を飾る」という行為に焦点をあて、審美概念との結びつきや飾りつけの実践例について紹介しました。

インドの古典芸術論では、作品鑑賞者の感情が刺激されることにより純粋に高められた美的な喜びのことを「ラサ」という概念で捉えます。ラサのなかで最も重要な「シュリンガーラ（恋情）のラサ」はヴィシュヌ神やその化身クリシュナが主宰し、とくに美しく着飾った人物の表現がこのラサを喚起すると説かれます。今日、神像への飾りつけをシュリンガールと呼びますが、この語には装飾が喚起する美的な喜びや神への導きが含意されることが確認できます。

飾りつけの好例としてクリシュナ神の生誕祭が挙げられます。祭礼では幼子クリシュナの像は煌びやかに飾りつけ（シュリンガール）され、寺院や家庭の祭壇で祀られます。そこでは「神が好む衣装」あるいは「自身が最高だと思う衣装」など個々人が神の身体そのものである神像と向き合う様子がうかがえます。また、シュリンガールには、色粉や花々の香りで飾ることも含まれます。祭礼では濃厚な香りによって神の臨在が喚起されることを、香りの体験を交えて紹介しました。

飾りつけは、神を歓ばせると同時に、自身が美的な喜びに達することを導きます。聖典には愛情を込めた装飾を促す神の言葉があるように、神との一体化をめざす信者にとって、飾りつけは個我を超える信愛（バクティ）の行為そのものだといえると指摘して結びとしました。

宝冠や衣装で華やかに着飾った祭壇の神像。撮影・福内千絵、2010年

■第544回■2024年1月6日(土)

もめごとの扱い方

――二一世紀のガダルカナル島で平和について考える

藤井 真一（民博助教）

今回の講演の狙いは次の二つにありました。一つ目は太平洋戦争の激戦地として有名なソロモン諸島ガダルカナル島を舞台として二〇世紀末に生じた内戦について紹介すること、二つ目は内戦後のさまざまな平和構築の試みと伝統的な紛争処理の文化から平和について考えることでした。

内戦の根本原因は、太平洋戦争後になってガダルカナル島北岸部にホニアラ（現在の首都）が建設されたこと、首都建設や近郊の発展に伴って特にマライタ島から大勢の労働者が同島へ移住したことにあります。一九九八年末にガダルカナル州知事が発した政治的要求に触発され、ガダルカナル側武装集団が同島内に暮らすマライタ系住民を武力で威嚇して追い出し始めました。幾度かの停戦の試みも功を奏さず、家財を失ったマライタ系住民が武装集団を結成して対抗するようになり、約四年半で二〇〇名近い死者と三万五〇〇〇名以上の国内避難者が生じました。

この内戦はオーストラリアを中心とする介入部隊の派遣で収束しました。武装解除や逮捕・訴追が進められ、のちには真実和解委員会が真相究明と関係修復も進めました。また、暴力の連鎖を断ち切るべく贈与交換する伝統的な紛争処理の文化も活用されました。今回の講演では、紛争処理の取り組みを紹介しながら、単に戦争や暴力が「ない」状態としてではなく、他者とともに生きられる関係性や条件をつくるという、より積極的・肯定的なものとして平和を考える道筋を示しました。

紛争終結後も繰り返される和解儀礼。
撮影・藤井真一、ソロモン諸島首都ホニアラ、2011年8月

本紙掲載の情報は、2024年2月20日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1（国立民族学博物館3階）
電話：06-6877-8893（平日9:00～17:00）
FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報

ホームページ https://www.minpaku.ac.jp

Facebook https://www.facebook.com/MINPAKU.official

国立民族学博物館友の会 最新情報

ホームページ https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

Facebook https://www.facebook.com/minpakutomo/